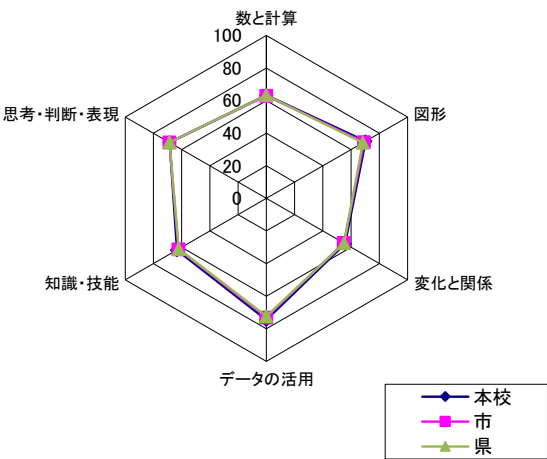


宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.3	63.0	63.3
	図形	70.2	69.2	68.3
	変化と関係	55.6	54.8	55.0
	データの活用	74.5	73.1	72.3
観点	知識・技能	63.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	68.6	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、63.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「帯分数を、もとにする分数のいくつかで大きさを考える」問題では、66.7%で市の正答率より7.8ポイント上回っている。 ●「式の意味を表したものとして、正しい文章を選ぶ」問題では、66.7%で市の正答率より8.0ポイント下回っている。	・計算の仕方を正しく理解し説明させるために、自分で絵や図で状況を整理する活動を増やす。
図形	・領域の正答率は、70.2%と県、市の正答率と同程度である。 ○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める」問題では、59.6%で市の正答率より5.7ポイント上回っている。 ●「ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ」問題では、60.6%で市の正答率より4.8ポイント下回っている。	・ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考慮することができるようにするために、問題のポイントを捉え回答するように指導していく。
変化と関係	・領域の正答率は、55.6%と県、市の正答率と同程度である。	・授業の中で「理由を説明する」「文章を説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。
データの活用	・領域の正答率は、74.5%と県、市の正答率と同程度である。	・算数の時間以外にも表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、記述式で答えたりする場をつくり、多面的な考え方を知る機会を設定していく。